

参考文献について (TeX版)

※ 電子情報通信学会の規則準拠

- 参考文献リストの作り方

- 赤文字の変更する部分は、各自で変更

- ダブルコーテーションの記述は、

- ・左側：半角で「```」（shift+`@`）を2個
- ・右側：半角で「`'`」（shift+`7`）を2個

1ページだけの場合は p.xxとなる。

※ \begin{document} より上の行に \usepackage{url} が必要

参考文献

- [1] 山田太郎, 移動通信, 木村次郎 (編), (社) 電子情報通信学会, 東京, 1989.
- [2] 山田太郎, “周波数の有効利用,” 移動通信, 木村次郎 (編), pp.21-41, (社) 電子情報通信学会, 東京, 1989.
- [3] 著作権管理委員会, “本会出版物 (技術研究報告以外) に掲載された論文等の著作権の利用申請基準,” 電子情報通信学会, http://www.ieice.org/jpn/about/kitei/files/chosaku_hyou3.pdf, 参照 Aug. 3, 2009.

参考文献の引用（1）

- 参考文献リストを作っただけでは、引用したことにならない。
- 引用するコマンドを使用して、本文中に文献番号を載せる。
- 直接引用（レポートではあまり使用しない）
 - 参考文献に記載されている文章などをそのまま書く場合が該当。
 - 引用の分量が少ない場合は「」で囲む。

澤田は「説明や解釈を行うにあたって、自分のことばではなく、資料そのものとして語らしめるほうが、読者の理解効果をあげるためにはるかに有効だ」という場合に用いる」ものだという[1]。

- 引用の分量が多い場合は段を下げて書く（「」は不要、**quote**コマンド）。

どうして引用の仕方が重要なのだろうか。引用をするときのルールを守る必要性について、酒井は次のように説明している。

引用文は他人からの借り物であり、借りる際のルールを順守する必要がある。ルールを破ると、他人が収集した情報を借りるのではなく盗んだことになり、盗用・剽窃となって著作権法を侵害することになる。[1]

このように酒井は、引用のルールを破ることは他人の情報を盗む行為になり、法律に違反するため、適切な引用をすることが重要だと考えているのである。

参考文献の引用 (2)

- 間接引用（レポートではこちらが多い）
 - 参考文献の文章を要約し、自分の言葉として書く方法。
 - 文献で述べられている内容を理解し、誤りの無いように要約する。

その理由は、酒井によれば不適切な引用は、著作権を侵害するからというものであった [1].

- 引用のための文献番号記載
 - 文献番号専用の引用コマンドがある。
 - 引用する文献リストの**bibitem{rrrr}**を確認し、引用番号を入れたい場所にコマンドを記述する。

その理由は、酒井によれば不適切な引用は、著作権を侵害するからというものであった ~\cite{rrrr}.

- 句読点の前か後ろかは、引用方法によって異なるので注意する。